

## 宮古市学校支援地域本部事業

### 自治体名

岩手県宮古市

### 震災後の地域の状況・仮設住宅数

海岸沿いの地域は東日本大震災による津波で大きく被災し、住宅が流失全壊、半壊等した住民が仮設住宅や一般借上住宅等への移転、内陸部への移転等を余儀なくされた。死者 517 名、行方不明者 94 名、住家等被害 9,088 棟 震災により校舎が大破した学校…小学校 2 校(両校は、平成 26 年 4 月に隣接する小学校へ統合) 校庭に仮設住宅が建設された学校…5 校 仮設住宅数…62 地区 1842 戸  
住宅再建予定… 民間住宅等用宅地 528 戸 災害公営住宅 28 箇所 793 戸 合計 1,321 戸  
災害公営住宅… 平成 26 年 12 月現在 3 箇所 66 戸入居済み 平成 27 年 3 月までに 5 箇所 147 戸、平成 27 年度中に 17 箇所 505 戸、平成 28 年度中に 2 箇所 35 戸が入居可能予定。

## <取組名> 震災からの復興にむけた新しい地域コミュニティづくりを担う ～宮古市学校支援地域本部事業の展開～

### 取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	5	270	1069	山口小、花輪小、茂市小、墓目小、宮古西中

### 活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
	○	○	○	○	(運動会・体育祭・文化祭等)
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
	○	○	○		( )
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					( )
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					( )
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					( )

【実施体制】「山口小学校支援地域本部」「花輪小学校支援地域本部」「茂市小学校支援地域本部」  
「墓目小学校支援地域本部」「宮古西地区学校支援地域本部」の5本部体制

### 【主な取組】

学習支援活動(農業体験、家庭科学習補助、体力測定補助、クラブ活動支援、点字指導等)

環境整備活動(草刈り、草取り、プール整備、学校林整備、除雪等)

登下校安全指導(毎日の登下校時の見守り)

学校行事支援活動

(運動会での競技支援、マラソン大会での安全指導、伝統芸能の指導、学習発表会での展示、文化祭支援等)

その他の活動

(生け花・ちぎり絵・茶道体験、読み聞かせ、日本舞踊指導、読み聞かせ、図書館整備等)



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

生活基盤全般についての復興が急速に進む中、高台移転地や災害公営住宅の完成に伴い、新たな生活が始まった住民も増加してきている。その一方で、様々な理由により仮設住宅での生活が長引き、将来の展望が見出しにくい住民も存在している。また、新たな場所で生活を始める住民同士のコミュニティづくりなど、復興の進展に伴う別の課題も出現してきている。さらに、津波の被害を受けた学校や校庭に仮設住宅が建設された学校では、校庭から仮設住宅の撤去が進んでいるが、今なお不十分な教育環境のもとでの学習を余儀なくされている学校もある。それぞれの学校が置かれている状況に応じたきめ細やかな支援が課題である。

◇住民等からの要望・必要な取組

東日本大震災の際には、長期間に渡り体育館が避難所となったり学区内の公園に仮設住宅が建てられたりしたことから、今後も災害時の避難者の受け入れや避難所運営等において学校と地域が協力して対応できるよう事前の体制づくりを進めていく必要がある。また、市内では学校統廃合が進む中で、新しい地域のコミュニティづくりが求められている地域もある。これらの課題解決の手段の一つとして、学校支援地域本部事業による地域コーディネーターが核となった学校・家庭・地域の連携による地域づくりをモデルとし市内全域に拡大を図ることで、震災復興のために、さらには、新たな課題を抱えた地域における課題解決へつなげていく必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

○地域教育協議会の設置

各学校支援地域本部では、自治会長、民生児童委員、公民館長、PTA 関係者、教職員等で組織される協議会を設置し、地域の多様な立場からの意見をもとにした多様な学校支援が進められている。

○コーディネーターの配置

学校支援地域コーディネーターは、保護者もしくは保護者であった方が務めることも多い。以前から地域について詳しく知る住民はもとより、新しく地域に入った住民も積極的に地域コーディネーターとして活躍している。また、各地域コーディネーターが学校ニーズの適切な把握ができるよう、例えば、多くの学校においては職員室内に地域コーディネーターの机を置き、日常的に情報交換を行うことで、教職員との連携を図るよう努めている。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

学校内のニーズに対応したボランティアの発掘のため、年度当初に学校支援地域本部についての説明やボランティア募集の広報紙を地域に配布し、事前に参加可能な分野、日時を登録していただいている。これにより、学校が地域によるボランティアの可能性を把握できるとともに、必要なボランティアの確保がスムーズに進むよう配慮している。また、登録の有無に関わらず、自主的なボランティアの申し出も増えている。そして、平成 20 年度の事業開始当初から地域コーディネーターを努めている方がリーダー的存在となり、他校の地域コーディネーターへアドバイスする体制が徐々に構築されてきており、コーディネーター同士の連携が図られている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

宮古市では、平成 20 年度当初から学校支援地域本部事業を導入し、家庭・地域との連携による学校支援活動を進めてきた。東日本大震災以降は、「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」により地域と学校の連携を更に進め、学校支援地域本部事業を採択する学校が増加してきており、着実に地域住民と学校との連携によるコミュニティの再生につなげることができている。また、地域住民による児童への防災教育など、単なる再生に留まらない被災地ならではの取り組みも増えている。

一例として、ある学校支援地域本部の取り組みでは、学区内のほとんどの公園に仮設住宅が建ち、公園での盆踊りができなくなっていたことを受け、創立 110 周年記念事業の一つとして学校を会場にして祭りを開催した。PTA、学校、地域の方々が共に準備・運営に携わり、建設業界の方が率先して櫓組みの中心となったり、青年会の方が出店の準備を進めたりと、それまで培った学校と地域とのつながりを活用し、地域ぐるみで祭りを作り上げることができた。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

- ・ 学校支援地域本部数 平成 23 年度…小学校 3校 → 平成 26 年度…小・中学校 5校
- ・ 登録ボランティア数 平成 23 年度…116 人 → 平成 26 年度…270 人

◇課題や今後の展望

地域住民の参画による学校支援の更なる推進とともに、地域住民自身の学びの場づくりの推進として発展させるために、市内小中学校が参加する教育振興運動集約集会や各種研修会において、「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞した「山口小学校」「茂市小学校」の 2 校の支援本部の事例について周知しながら、市内全域に学校支援地域本部事業の浸透を図り、震災復興のための地域コミュニティ再生の加速につなげたい。